

活動助成（2009年度募集）活動実績報告書

団体名	宝塚不登校の会「サポート」
活動テーマ	人生の危機に向き合うための講演会 『笑いとは副作用のない処方箋～遺伝子スイッチ・オンの生き方』



2010年7月31日開催の講演会は、福知山線列車事故被害者の鈴木順子さんとお母さん：もも子さんの協力なくしては実施できないものであった。定員100名のところ、スタッフ、パネラーなどを含めると総勢200名近くにもなり、車椅子の方や京都など遠方の方にもご参加いただいた。参加者の大半は50～60歳代であり、男性の姿も多く、男性介護者の会からも参加があった。村上和雄氏の講演内容から——「あきらめないこと」、「出会いが立ち上がり共通して役立つこと」、「前向きに生きることが、遺伝子オンになることを理解した」との感想をいただいた。

悲嘆のプロセスを考えることは大事なことであるが、それだけでは悲嘆当事者は苦しくなる。だからこそ、希望の光となる人との出会いを求め、この講座に関心をもった方も多かったのではないだろうか。また、参加費の代わりに「お花募金」を企画し、障害児者作業所に全額寄付をした。同時に夏休みのこの期間、尼崎市塚口にあるカフェで、生きる意味を考えるきっかけになることを願って、「鈴木順子作品展 あの前 あの時 そしてTAKE OFF」も開催した。

さらに、この講演会の続きとして2011年1月22日には、山梨県甲府市のふじ内科クリニック院長：内藤いづみさんを招き、鈴木順子さん、もも子さんをゲストスピーカーとした講演会も開催することができた。

今後も生きること、命の大切さを考えることを若い世代に伝えていくつもりである。なお、この講演の様子は2011年4月発行：「宝塚発：不登校から考える～あなたにつながりたい」に掲載を行った。